

豊田の宝「ホタル」を通したまちづくりへの貢献

下関市立西市小学校

1 はじめに

県西部に位置する下関市豊田町は、梨やホタルが有名であり、それらを資源として様々な団体が地域活性化を図り、活動を行っている。特に、ホタルについては、ホタル祭りやホタル舟運航、施設「豊田ホタルの里ミュージアム」等、ホタルを通したまちづくりを常時発信し続けている。

その豊田町にある本校では、これら豊かな地域資源（ひと・もの・こと）を活用し、様々な教育活動を充実させるとともに、児童のふるさと豊田を愛する心を育てている。中でも、年間通じたホタルにかかわる活動は年々深化充実してきており、地域とのつながりもより深まってきている。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、学校の教育活動も次第に以前のように実施できるようになってきた。豊田の宝「ホタル」を大切にしている豊田町に、児童がかかわり、そのまちづくりに貢献している活動の一部を紹介したい。

2 活動の概要

(1) ホタル舟清掃（5月22日）

本年度も、ホタル舟実行委員会の方のご指導のもと、5・6年児童約30人がホタル舟及び発着場の清掃を行った。

倉庫から約1年ぶりに現れたホタル舟を目の前にして、

児童は少し興奮気味だったが、限られた時間の中で、友達と協力しながら、ホタル舟の埃を箒で掃き出したり、舟の座席等を雑巾で拭き取ったりした。また、川岸の発着場の地面を水で流しながらデッキブラシで磨いたり、大きな階段の手すりを持ち運び、設置したりした。

ホタルの光の舞を舟から鑑賞できるこのホタル舟の運行を、豊田町を訪れる多くの観光客が楽しみにしていることを児童はよく知っている。「きれいになったホタル舟を気持ちよく楽しんでもらいたい」と清掃を終えた児童が感想を述べていた。ホタルの町豊田町の一人として、ホタル舟運航の準備に携わることができ、達成感や充実感を味わったようである。

後日、6年生は、ホタル舟実行委員会からホタル舟乗船に招待してもらった。川辺に光るホタルを、きれいになったホタル舟から鑑賞し、いつもとはまたひと味違った気持ちで鑑賞することができたようである。



(2) 豊田のホタル祭り (ホタルの祭典) 金管バンド出演 (6月10日)

年間を通して、豊田町には様々なイベントが催されているが、その一つに「豊田のホタル祭り」がある。6月上旬の二週にわたる土曜日に開催され、町外から多くの観光客が訪れ、大変盛り上がる祭りであり、児童もとても楽しみにしている。

毎年、その祭りでのステージ発表に、5・6年全児童で構成される金管バンドが出演している。コロナ禍で祭り自体中止されていた時期もあったが、昨年度から復活し、練習を重ねてきた児童が発表の場として堂々と演奏を披露することができた。披露した曲は、童謡「ほたるこい」や校歌等数曲である。大勢の観客を前に、小学生らしい立派な姿を見せることができ、保護者を含む多くの方から、演奏後に大きな拍手をいただいた。

西市小学校の伝統として受け継がれている金管バンド演奏。「豊田のホタル祭り」の一ステージ発表として演奏披露が欠かせない存在となっており、また、児童の発表の場となる学校の教育活動の一つとして欠かせない機会となっている。



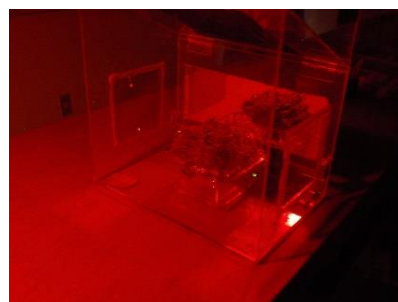
(3) ホタルの観察、ホタル (幼虫) の飼育・放流 (5~11月)

ホタルの観察や幼虫の飼育等、校内においてホタルに関する活動はいくつもある。

春には、下関市教育委員会豊田教育支所主催のホタル情報員による調査で、ホタルが観られた場所や数、期間等を情報員になった児童が調査し、報告している。また、秋には、希望児童が「ほたるマスター検定」に取り組み、ホタルに関する様々な質問(テスト)に挑戦し、合格をめざして勉強している。

さらに、今年度は、豊田ホタルの里ミュージアムの学芸員の協力により、本校校舎内にて、ゲンジボタルやヘイケボタルを昼間に全校児童が鑑賞することができた。

毎年、夏から秋にかけては、常時ホタルの幼虫飼育に児童が携わっている。ホタル飼育サポーターと呼ばれる地域の方に教わりながら、小さな幼虫を育てている。餌となるカワニナを与えるだけでなく、水温等の飼育環境も考えながら研究しつ



育てている。その研究結果は、今年度もホタル飼育クラブ員が、秋の「ホタルさよなら集会」で発表し、その後、成虫になって豊田町で美しく輝いてほしいと願い、全校児童で本校側を流れる山田川に幼虫を放流した。

一年のうち半年以上ホタルにかかわるがゆえに、ホタルは児童にとって身近で当たり前の存在になっている。

3 成果と課題

今年度、新たな活動として、1学期の6年生授業に豊田地区まちづくり協議会の方をゲストティーチャーに招き、ホタルを中心としたまちづくりについて講義していただいた。当日は、マスコットキャラクターの「ほたるん」もやって来て、児童はとても喜んでいた。

この授業は、ふるさと豊田の地域資源を題材にした学びを始めるにあたり、毎年行っている当り前の活動としてではなく、ふるさと豊田を誇りにもち豊田町に住む一人の人として知りたい、学びたい、体験したいという思いを児童にもってほしいということから生まれた授業だった。この授業実践に効果はあり、その後の活動に取り組む児童の気持ちに少なからず変化はあったようであり、今年度の取組の成果として感じているところである。



ホタルにかかわる活動は、どれも歴史があり、本校の伝統行事や活動として行っている。それらの活動を「あるから、する」のではなく、一つ一つの活動の目的や児童に身に付けさせたい力（伝え合う力、学びとる力、実践する力）を、意識したり確認したりしながら実践していくことが今後も大切であると感じている。

4 おわりに

豊田町は、地域資源（ひと・もの・こと）が豊富で、本物を学ぶ機会がたくさんあり、とてもありがたいことである。家庭も地域もとてもあたたかく、その中で、児童は素直に、そして子どもらしくのびのびと成長している。

本年度、本校は開校150周年を迎え、秋季運動会や「開校150周年を祝う会」等の行事を通して、家庭と地域とで本校の歴史と伝統を振り返ってきた。その中で、やはり「ホタル」は欠かせない。

豊田の宝「ホタル」を通したまちづくりに、様々な学校教育活動を通じて貢献していると上述にてまとめたが、同時に、あらゆる場面で児童の学びや成長を大きく支えてもらっていることも確かである。地域とのつながりをいつも、いつまでも大切にし、豊田の宝である「ホタル」のようにキラリと輝く人を育てることを、これからも学校の役目として果たしていきたい。